

講義名	ロジスティクス論			
担当教員	李 志明			
開講期・曜日・時限	後期 水曜日 2時限	授業形態	講義	
履修開始年次	3年生	単位数	2	備考

主題と概要

我々は日常生活において食品や衣類そして家電製品など様々なモノを消費している。そのため、企業はモノを生産し消費者に届けるが、売れるモノを作り、売れる状態でモノを届けなければならない。それに応える管理手法がロジスティクスであり、流通における重要な戦略である。

講義を通してロジスティクス・マネジメントの理論や事例を通して課題を理解する。特にロジスティクス論では、企業の役員が知らないといけない戦略的な視点の内容を多く講義する。

到達目標

(1)ロジスティクスの過程と役割が理解できる。
(2)産業界に多様な企業のロジスティクス戦略が理解できる。
(3)ロジスティクスにおけるデータ分析と戦略的意思決定ができる。

提出課題

オンデマンド式講義であり、参加確認と理解度確認のため、Responで小テストを実施する。
15回の授業のうち、10回実施予定。
実施日については、講義連絡を必ず確認すること。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

Responで実施した小テストの解説と質問への回答を行う。
ただし、やむを得ず欠席した学生に時間を与えるため、基本的に2週間後に行う。

評価の基準

小テスト10回（各10点）、100点満点で評価する。

*講義形式の変更があった場合でも成績評価方法は変更しない。

履修にあたっての注意・助言他

・オンデマンド式の講義であり、Responで小テストを実施するため、事前にIT環境などを確認しておくこと。
・小テスト有無は授業内容によって異なるため、講義連絡を必ず確認すること。

教科書				
.使用しない。				

プリント資料及び参考文献

オンデマンド式なので、レジュメは配布しない。
ただし、授業内容によって必要な場合は、適宜配布する。

授業計画

- 1.ロジスティクス論の理解
- 2.4つのロジスティクスとビジネスロジスティクス
- 3.物流管理の変遷：物流からSCM
- 4.ロジスティクスにおける施設ネットワーク
- 5.ロジスティクス施設の立地戦略とその演習
- 6.企業のロジスティクス戦略の事例
- 7.話題のロジスティクス
- 8.ロジスティクスにおける在庫管理
- 9.生産在庫方式：フッシュ方式とフル方式
10. SCMと3PL
11. ロジスティクスと環境
12. 災害時のロジスティクス
13. 買物弱者のためのロジスティクス
14. これからのロジスティクス
15. まとめとロジスティクスの再考察

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

この授業科目は2単位であるが、2単位に必要な学修総時間は90時間と定められている。内訳は授業で毎回90分、予習・復習で毎回4時間である。授業中に案内する次の内容についてネットなどを利用して3時間予習し、授業後に1時間ほど復習する。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

ロジスティクスは生産と流通において重要な役割を果たしている。ロジスティクスの基礎知識を身につけ、企業のロジスティクス戦略を理解すると、DPの「小売業界や流通に関する問題探索と課題提案ができる」ようになる。

また、ロジスティクスの仕組みは流通の仕組みとしても説明できるため、DPの「流通の仕組みと役割が理解でき、これからの流通の姿を構想する」ことにも貢献できる。

さらに、ロジスティクスは小売業だけではなくインフラとして経済においても重要な役割を果たしている。特に、環境や災害などを考慮した効率的なロジスティクス戦略を行えることで、DPの「社会で活躍できる」ことにつながる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

Responで質問または意見を受け付ける。対面式またはLive式に変更があった場合でも、Responで事前知識などのアンケート調査をしたり、チャットなどで質問などを受け付ける。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。
物流データの分析と物流政策立案の支援の経験があり、民間企業や政府の考え方や仕事のやり方などを伝え、現実感のある授業を提供する。

備考